翼

―つばさ―

ＪＲ総武本線最終便の横芝駅乗り入れ実現

町　長　佐藤　晴彦

延伸に向けての折衝

総武本線千葉駅23時50分発成東駅止まり最終便の横芝駅までの延伸について、ＪＲ千葉支社と協議が整い実現に向けた準備が進められることとなりました。

この件につきましては、私が町長になる前からの町民の皆さんへのお約束であり、就任以来あらゆる角度からこの実現に向けて努力してまいりました。

その間、千葉支社と新宿の本社まで何度も出向き実現に向けた要望を重ね、また何人もの方々のお力をお借りしてまいりましたが、総武本線の乗降客の伸び悩みなど様々な課題からなかなか思うように進まず年月が流れてまいりました。

▶ＪＲ横芝駅

平成22年3月開始予定

そのような中、昨年12月にＪＲ千葉支社から2名の職員が来庁され「ご要望いただいておりました下り最終列車の横芝駅までの延伸については、町のご協力をいただけるのであれば、平成23年3月頃からの実現は可能となりました。」との回答をいただき、嬉しさと同時に驚きを隠せませんでした。

その町が協力をすべきものとは、駅舎の開場時間が著しく伸びることから、一部時間帯を機械的に管理することとしてシャッター設備や乗車証明書の自動発券機等を設置するための経費を負担協力できないかというものでした。

私は、二つ返事で了承し、早速担当者同士の打ち合わせに入るようお願いをして当町の担当者にも指示いたしました。

その後間もなく、22年3月からでも間に合う旨の連絡をいただき、早速千葉支社へ私自ら出向き、千葉支社長と面談を交わし可能な限り早い時期での実現のお約束をいただきました。

千葉駅 22:36 → 成東駅 23:18 → 横芝駅 23:29（現行最終便）

現行ダイヤ 23:50 → 0:33（改正後）

回送…3番線待機

乗車 → 終着（改正後最終便）

終着時刻は、ダイヤ改正までお待ちください。

通勤圏の拡大

この最終便の横芝駅乗り入れは、千葉市や東京方面に通勤・通学をされるＪＲ利用者にとって、大変に意味深いものであり、また、スポーツ観戦や文化芸術など夜間に行われるイベントを最後まで楽しめるなど、臨時的にＪＲを利用される方にとっても日帰り活動エリアが広がります。

また、これから就職をされる方や既に仕事に従事されている方などにとっては、より遅い時間での仕事に従事することや残業などにより、より多くの収入の確保が可能となり、言うなれば実質的な通勤・通学圏の拡大が図られ、当町の発展に大きく繋がるものと確信しているところです。

横芝光町の更なる発展

現在、横芝光町と千葉県において駅前広場拡張事業と駅前交差点改良事業を進めており、平成22年度の事業採択に向け順調に進展しております。既に測量業務につきましては終了していることから、最終便の乗り入れと共に駅前整備が具現化されることで、一層の活性化が図られ、より住みやすい横芝光町の構築に繋がるものと思いを募らせておりますので、今後とも町民の皆様方には更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びにこの度の最終便乗り入れについて、実現のご決断をいただきましたＪＲ千葉支社の深いご理解と町の要望に助言をいただきました地元関係各位に感謝を申し上げます。

文芸

俳句

放哉の咳を集めてひつじ雲　池田　逸子

懸大根上総の風に曝しけり　伊藤　敬子

ままならぬ筆の運びや初稽古　伊藤　定男

元旦や真白き護摩札真中に　今関満喜子

百八の煩悩の鐘一つ撞く　魚地　照子

忙しなき日にゆらゆらと冬の蝶　江森　悦子

木曽宿の蜂の子土産冬ざるる　川島　孝夫

幸せは九十の母へ年始かな　川島　通則

文旦点柚子を配ってゆずり合い　向後　寛

つわものの眠る靖国寒の月　越川　義則

振り向けば鏡が語る冬化粧　小松　藤男

茶の花や社幟りの塵払ひ　佐瀬　輝夫

大陸のペチカと吾の幼年期　宍倉　道子

初日の出光りに己が身を清め　玉虫　栗扇

注連縄をくぐる朝日のまぶしかり　土屋美枝子

ほつほつと心温もる初便り　土屋　義昭

さすらひの口笛吹いて去年今年　戸村　静萃

水平線波静まりて初日待つ　西崎さち子

屠蘇祝う親子三代平和の世　長谷川正子

新年は大吟醸で祝ひけり　早川　勇

短歌

戸を繰ればきびし初霜なべて白遠き山まで凍てて深深　越川　福子

見上げればごうごうと飛ぶ飛行機に我飛びし頃ふと思い出す　鈴木　益郎

道の辺の名もなき草もみどりして新しき世に生命いとなむ　高梨　キヨ

地に向かひ秘かに調べ奏でゐるエンゼル・トランペットの淡き紅　八角　三枝

道の辺の小さきお堂の観世音陽射しが頬に揺れ動きゐつ　西山満里子

勝浦の朝市の媼の呼び声に吊せる鳥賊を買ひてしまひぬ　青木　秀子

沿道に張り出す槙の枝払ひ植木職人の来るを待ちゐつ　鈴木まさ子

桃色のダイヤモンドリリー開き初め反りたる花弁に艶の増しゆく　池田　春江

明けやらぬ庭の竈に薪を焚く赤あかとして炎が揺るる　押尾　輝子

お正月子なき家にも孫曾孫娘夫婦と集ひ賑ふ　吉岡　信子

生で聴くハープの演奏初めての音の響は神話の世界　田崎　尚美

帰りゆく女孫を見送る夜半の庭凍て星雲に輝きゐたり　芹川　初子

見るのみの花にはあらず山茶花は枝から枝へめじろ遊ばす　佐瀬　初音

二歳児は遊んであげると笑ひつつ箱なる家に吾を導く　平山　芳子

倒産やリストラといふ物言ひが社員の吾を強くゆさぶる　島田ますみ

蕗の薹いまだ幼し散り落葉そつと被せて帰り来にけり　斉藤つね子

こうほう博物館 23

京の都から来た土器

平成十六年、栗山川の左岸に広がる芝崎遺跡を発掘していて、ある一軒の住居跡から一風変わった器が出土しました。形は胴から底が丸く、口の縁が内側に折れ曲がっていて、一見したところでは何の変哲も無い甕形の土器です。しかし、色が薄茶色でキメの細かい土で作られていて、この地域で作られたものでないことが予想されました。そこで様々な本を見て、同様な土器がほかで出土しているか調べてみました。その結果、形や表面の整形痕模様が似ている土器が、京都府の長岡京遺跡で出ていることが分かりました。

長岡京と言えば延暦三年（七八四）桓武天皇が平城京から都を移し、また延暦一三年（七九四）平安京に移るまでの、わずか十年間という短命な日本の首都でした。その十年間の長岡京で使われた甕の形には、他の器とは異なる特徴がありました。その外見上の大きな特徴は、胴から底が丸く、口の縁が内側に折れ曲がり、表面に刷毛でなでたような線と、下部には板目で叩いた痕があり、器の色が灰色がかった薄茶色をしていました。まさに芝崎遺跡で出土した土器が、同じ特徴を持っていました。念のために長岡京のあった現在京都府向日市へ持っていって鑑定してもらったところ、間違いなく当地の土器で、大阪府高槻市で作られた物であるということまで分かりました。

このように芝崎遺跡で出土した土器が、遠く京の都からもたらされたものであることが分かり、これによって当地と都との何らかの直接的な結びつきがあった事が推定されます。また時期が限られた土器が出土したことは、遺跡の年代を測る上でも貴重な資料になります。

▲出土した甕形の土器